

令和6年度事業計画

令和6年3月31日

わきはまこども園

1、こども園の運営

所在地 貝塚市脇浜3丁目31-8

定員（2号・3号） 90名（実数93名）

0歳児 5名 1歳児 16名 2歳児 13名

3歳児 18名 4歳児 20名 5歳児 21名

定員（1号） 10名（実数8名）

3歳児 1名 4歳児 6名 5歳児 1名

職員定数 27名（委託給食の為調理員の数は含まない。）

園長を含め正規職員17名、副園長1名、管理栄養士1名（おおぞらとこども園と兼務）、パート常勤保育教諭2名、パート非常勤保育教諭4名、派遣保育教諭1名、事務員1名の合計27名。

2、保育目標

- ・ あいさつができる子の育成
- ・ 思いやりのある子の育成

(1) 開園時間 午前7時～午後7時

基本保育時間（2号・3号） 午前9時～午後5時

午後6時～午後7時（保育標準時間認定者は延長保育料金徴収）

午後5時～午後7時（保育短時間認定者は延長保育料金徴収）

午前9時までに登園（保育短時間認定者は延長保育料金徴収）

午後7時を過ぎて降園（超過料金徴収）

基本教育時間（1号） 午前9時～午後1時

午後1時～午後3時半（希望者は保育時間とする）

午後3時半～午後5時（延長保育料金徴収）

午前9時までに登園（延長保育料金徴収）

(2) 運営・教育・保育の内容

幼保連携型認定こども園としてスタートしてから7年目となり、益々充実した保育、教育に力を入れていきたい。園児数の合計は、1年前スタート時と同程度数となった。在園児については年度替わりの引っ越しにより1名が3月末で退園となった。園児の4月スタート数は、0、1歳児（ひよこ組）と4歳児（かもめ組）が多めの傾向となった。4月21日より、満3歳児1号認定の園児を1名受け入れる。加配児数は継続児4名となる。（3歳児1名、4歳児1名、5歳児2名）途中入園に関しては0歳児をプラス1名まで、3歳児をプラス1名まで、5歳児は希望があれば受け入れる方針で考えている。職員の流動的な休みと照らし合わせながら柔軟に考えていきたい。全てにおいてバランス感覚を持ちながら、年間通じて安定し、余裕のある運営、教育、保育を目指したい。

3月末の退職者は、育児休暇後リターンしなかった保育教諭1名、非常勤保育教諭2名、短時間派遣保育教諭1名となった。新規職員は学卒保育教諭3名である。また、年度途中で非常勤保育教諭1名が常勤になってくれたこと、そして以前正規職員として勤務していた保育教諭1名が、朝と夕方の延長時間担当者として1月から再勤務してくれていることが、令和6年度の心強い存在となっている。

引き続き昼の清掃業務を専門業者に一部委託する。また出来れば補助金を利用して保護者との連絡ツールとしてのシステム導入かバージョンアップにより職員の負担軽減を意識する。新入園児の土曜日保育利用率の様子をみながら、土曜日出勤職員の数もフレキシブルに対応していきたい。

実習生に関しては短期大学生3名を6月に受入れる。また、保育士養成校の大学生2名と高校生1名を夏にボランティアとして受け入れる予定である。また年間通して保育士養成校の学生1名がお互いの都合によりアルバイトに来園予定である。5月には泉州の就職フェアに法人でブースを出し、人材確保を早い段階から積極的に行う。

保育教諭のキャリアアップの為の処遇改善加算ⅡはⅠと共に続けられる見込みである。また通称で処遇改善加算Ⅲと呼んでいる『保育士・幼稚園教諭等処

『改訂改善臨時特例事業実施』（令和4年2月スタート）は当園では職種や勤続年数等に関わらず一律全員同額を支給予定である。

キャリアアップ研修はコロナ禍からオンライン研修が常態化し、受講し易くなった。主幹保育教諭1名がスマイルサポーターを取得できる研修、保育教諭1名が食育研修、保育教諭1名が保健衛生研修を受講する予定である。

基本的には、コロナ以前に実施していて方針を実現できる行事であるにもかかわらず未だ再開していない行事をリスタートしていきたい。毎月のお誕生日会は令和7年度に保護者を招待して試食会も兼ねる以前のスタイルを復活させたいので、少しずつ保護者が関わる行事を増やしていく。運動会や発表会等の大きな行事に関しては、制限を設けることなく、子ども達が心置きなく成長を發表できるスタイルに戻す。（組体操で本来の表現をしたり、思う存分歌ったり、セリフを言ったりすること等。）また観覧の人数制限も会場の広さが許せば無しにしたい。また、そうめん流しやバイキング、クッキング給食等、食育にかかる行事も、衛生面に気を付けながら行っていきたい。健やかな子ども達の成長を阻害しない日々を心掛ける。そして日本古来の文化や季節を感じる取り組みを大切にす。昔ながらの童謡・唱歌を歌ったり、お手玉・あやとり等の昔遊びを楽しんだり、もちつきやそうめん流しなど伝統的な行事を行う。

引き続き、『こども新聞』を年4回配達してもらおう。クラスに置き、興味を持った子どもが自由に読める環境を整える。主に年長児が社会に興味を持つ機会、活字に親しむ機会としたい。

更に子ども達に楽器演奏を教える職員のスキルアップの為に、年間通じて専門家より研修を受ける。また声楽の外部講師に依頼し、職員が歌唱の指導を受け、子ども達が日常的に正しい音感に触れることが出来る様、努力する。

デイリープログラムについては、園児の年齢に応じ保育教諭と園長が協議し定める。

令和6年度も法人理念、園の方針に則ることを念頭におき、歳児別に年間テーマを設定した上で、子ども達の成長を一番に考慮した教育、保育を行い、年度末の研究保育発表につなげる。

- 【5歳児・・・造形表現】
- 【4歳児・・・ECOから遊んで楽しもう！】
- 【3歳児・・・表現遊び～創造力を育もう！】
- 【2歳児・・・(食) たべる】
- 【1歳児・・・造形あそび】

年間通じて絵画や造形に関して単発的な制作にとどまるのではなく、子どもの好奇心や興味を上手く引き出し、年長児には絵画展へ年2回の出展を促し、意欲の育みにつなげる。

運動についてはピロティや屋上、近隣の公園をフルに利用しながら、ドッジボールや縄跳び等が充分出来る工夫を考える。

5月の最終週の土曜日には父母の会と共催し『お祭り遊び』を二部構成で、園児が楽しめる工夫を凝らしながら計画する。

貝塚いぶき作業所の方々といぶき祭りや陶芸体験等を通じて交流を持つことや、独居老人昼食会（いきいきランチの会）への参加等、世代間交流を図ることは再スタートを期待する。

少しずつ再開している地元小学校との交流、連携は地域の様子を見ながら積極的に進めたい。小学校へ避難する津波想定避難訓練を年2回実施し、いざという時の協力体制を作りたい。その為には、園と小学校の縦の連携を強める働きかけを積極的に行う。

オール大阪の社会福祉法人による社会貢献事業に関しては数年間感染症の影響で殆ど実施していないが、反面、コロナ禍で生活困窮者は増え、深刻な案件も多くなっている事を重く受け止めなければならない。社会貢献支援員と連携し園長を含めスマイルサポーターが今後具体的にどう活動していくか前向きに検討する。本事業について特に大阪府下でも先駆的な役割を担っていることを自覚し、社会福祉法人のあるべき姿を常に意識する。

- ・ 月 2 回 3、4、5 歳児体育指導 2 時間（ねんねこキッズ所属指導員）
- ・ 月 2 回 4、5 歳児英語指導 1 時間（アメリカ人講師）
- ・ 年数回 4、5 歳児習字指導 1 時間（副園長、保育教諭）
- ・ 月 2 回 5 歳児珠算指導 1 時間（脇浜町内珠算指導員）
 - 職員名簿、園児名簿は別紙。
 - 食育計画は別紙。
 - 年間行事計画は別紙。
 - 研修計画は別紙。

（3）担当

担当保育教諭を定め、園長は総括的指揮をとる事とする。調理担当は別。担当は、クラス単位でも定めるが、専門リーダーを含む係りの割り振りを行い、クラス以外の担当も担うことで、全職員で運営していくこども園を意識する。

2名の主幹保育教諭は副園長からレクチャーを受けながら、主幹としてのスキルアップを図る。2名がそれぞれの能力を発揮出来るよう、役割を分担する。また園長及び副園長の補佐を行う。

主幹保育教諭のうち1名は主に職員の指導、非常勤職員への滞りない連絡や給食会社との連携、園児や保護者全体の把握を元に取りまとめ等を行う。また実習生やボランティアの窓口となる。

主幹保育教諭のもう1名は、引き続き毎月定例の仕事、WEBに係わる仕事、書類作りを中心に園長の補助を行う。（園だよりやシフト表、各種書類作成）又引き続き各種マニュアルを現状に則った内容に見直す。

管理栄養士は、正職員としての勤務が3年目となる。園内（事務所と調理室と保育室）での連絡調整、姉妹園との連絡調整に、より一層力を入れる。全てにバランス良く、離乳食も含めた栄養管理、アレルギー児も他園児と同じ給食を食べられる『なかよし給食』の充実、またはそれに付随する業務を行う。又、淀川食品株式会社の調理主任と連携をとり、多くの食材業者との連絡を密にし、バリエーションにとんだメニュー作りを心掛ける。食材費の高騰の現状と食育の推進、衛生面や感染対策を講じた上での食に関する伝統行事をバランスよく行っていく。

事務職員については、正職員としての勤務が2年目となる。今までと同様、事務長が担っていた仕事の引継ぎを受け、仕事の幅を広げることや質を高めるようにする。会計、経理関係を中心に、主に労務や会計関係の仕事を遅滞なく行う。またリスクマネジメントを意識し、現状より有効なヒヤリハット活用を進める。食費や光熱費高騰が続くことが予想されるので、職員に対して節約指導を行い、園運営の安定化の一助を担う。

体育については引き続き外部講師による指導を受けることとし、5歳児の年間計画に剣道を盛り込み、礼儀作法を中心に学ぶ。また就学までに身に付けておきたい体づくりの指導を中心とする。

英語は引き続きアメリカ人講師のMより指導を受ける。

珠算教室は7年目となり、町内のH氏に引き続き指導を依頼する。英語も珠算も、講師立案年間カリキュラムに基づき、楽しみながら学ぶ機会とする。

AEDの使用方法を皆が把握する。またAEDマップの定期的なチェックを行い、オンライン講習会にも参加する。また砂場、遊具等の消毒や安全管理等については業者の定期的なメンテナンスの内容を見直し、保護者へのアピールを定期的に行う。更に、今迄通り環境整備担当職員が、年間通してチェックリストに基づき定期的に園内安全管理を行う。子ども達が遊びこめるような園庭づくりを行う。事故報告については園から子育て支援課への報告様式が統一化されているので、必要な際は提出を忘れない。

その他、学校医は貝塚市澤在住のクリニックのN医師。学校歯科医は貝塚市島中のI歯科医師。学校薬剤師は貝塚市中町のE薬剤師。

3、保育設備

- 園舎・・・前年度と同様美化に努める。
- 備品・・・償却品となった折補い、修繕出来るものは行なうこととする。
- ・ひよこ組の乳児用4人がけ机を購入
 - ・カラーコピー機1台（リース）

- ・ノートパソコン7台、メインデスクトップパソコン1台、タッチパネル2台（購入かリース）
- ・監視カメラのレコーダー（リース）
- ・電動避難車と4人がけ避難車を修理予定
- ・事務所の災害時用壁掛け式テレビを購入予定
- ・ガス炊飯器、揚げ鍋、やかんを購入
- ・調理器具や食器類の買い替えを必要に応じて行う
- ・調理室前グリストラップの年2回定期点検（4月と9月頃）
- ・ダムウエーターの年4回点検
- ・高圧電力の為、キュービクルの月1回点検

4、資金の計画

- ・ 施設型給付費収入と補助金収入で円滑に進める。
- ・ 増改修工事後、独立行政法人福祉医療機構への借入の返済が4月より4年目となる。（残り17年）

5、その他

- ・ 緊急災害（地震や津波）にも対処出来る様、月1回の避難訓練は欠かさず行い、常日頃から非常食や水を備え、避難の際や避難場所で必要な物の管理を定期的に行う。また2～3日分の食料備蓄分を小学校に保管を依頼する。さらに重要書類を貸し金庫に保管する方法を検討する。
- ・ インターネット関連の業務の委託を引き続き行い、財務諸表や計画報告類等を自園のホームページで情報公開する。

※保育、教育は、園児の健全な発育を妨げないことを大前提に計画し、休園や行事変更や中止の措置については地域の状況を見極めながら、且つ、『こどもまんなか社会』を意識し、貝塚市の方針に倣うこととする。

以上